

2015 年度 新入生アンケート 結果報告書【大学】

結果報告書目次

調査の概要	2
1. 回答者の所属学科	2
2. 回答者の性別	2
3. 実家のある地域	3
4. 選抜方法	3
5. 大学入学後の住まい	4
6. 大学進学の方法	4
7. 大学生活の目標	5
8. 現在関心や興味のある事柄	6
9. 現在の不安や悩み	7
10. オープンキャンパスへの参加	7
11. USE（入学前学習支援）への参加	8
12. 学外オリエンテーションについて	8
13. 学外オリエンテーションでの友人や教職員との親睦や交流	9
14. 本学（学科）の入学理由との関連	10
15. 本学入学への影響	15

調査の概要

本報告書は、2015年度大学新入生アンケートの回答を集計したものである。このアンケートの調査目的は、新入生に心境等を尋ね、充実した学園生活を過ごすための参考資料とすることであった。調査回答者は、2015年度京都外国語大学新入生 960名、調査時期は2015年4月4日から8日であった。なお、2014年度の調査結果も合わせて示すこととする。2014年度の回答者は 934名であった。以下に示す集計結果は、それぞれの回答への欠損値を省いたものである。

1. 回答者の所属学科

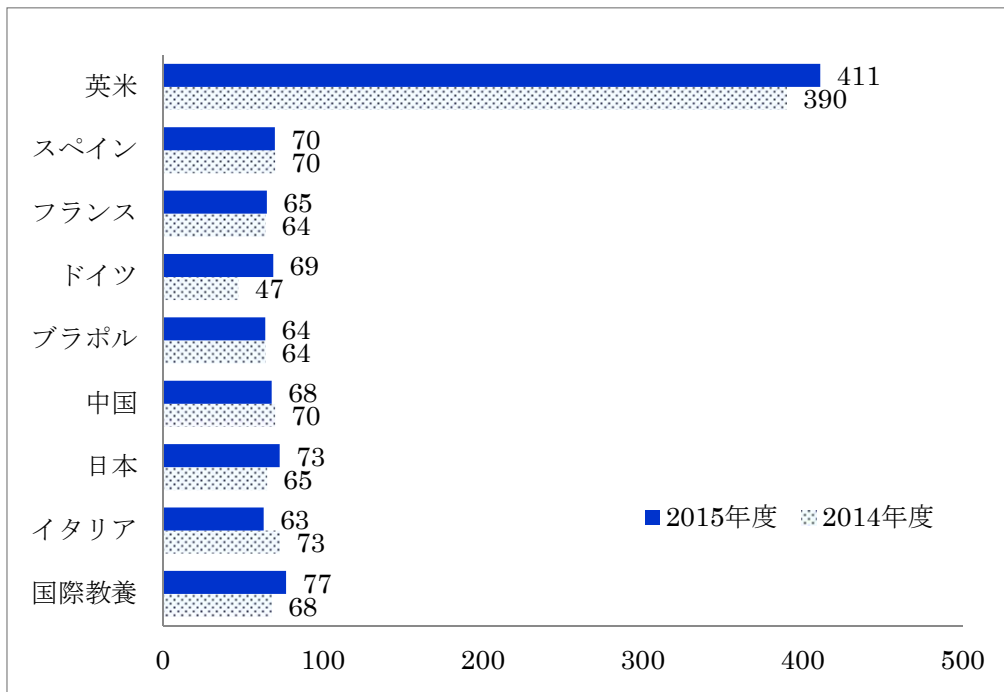


図1 年度別の回答者の所属学科（人数）

2. 回答者の性別

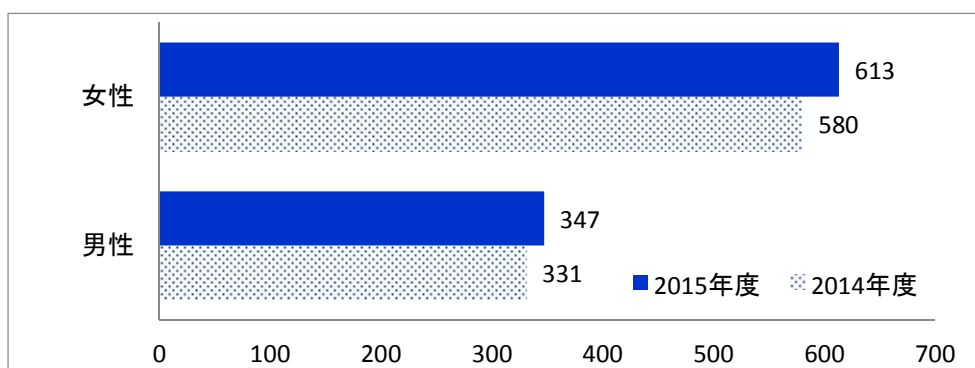


図2 年度別の回答者の性別（人数）

3. 実家のある地域

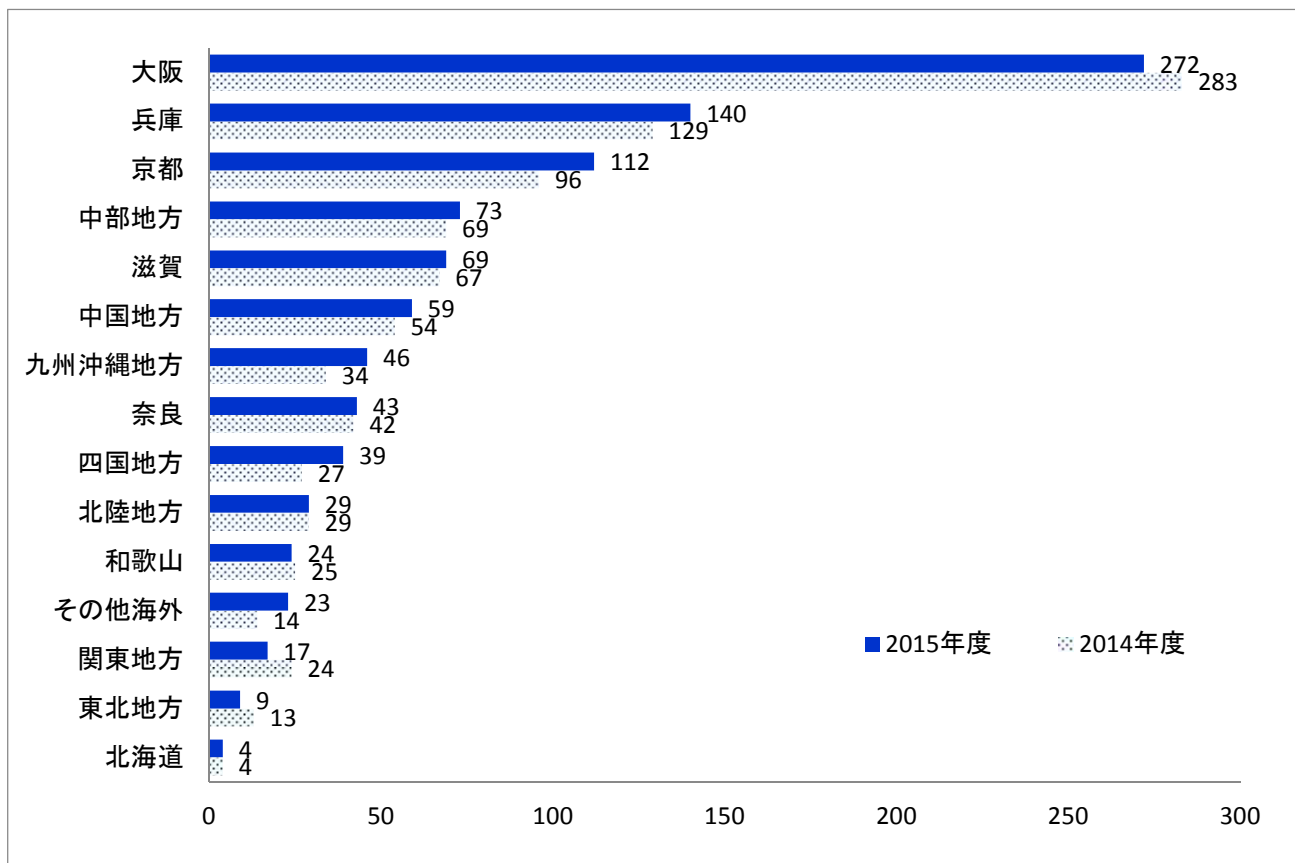


図3 年度別の回答者の実家のある地域（人数）

4. 選別方法

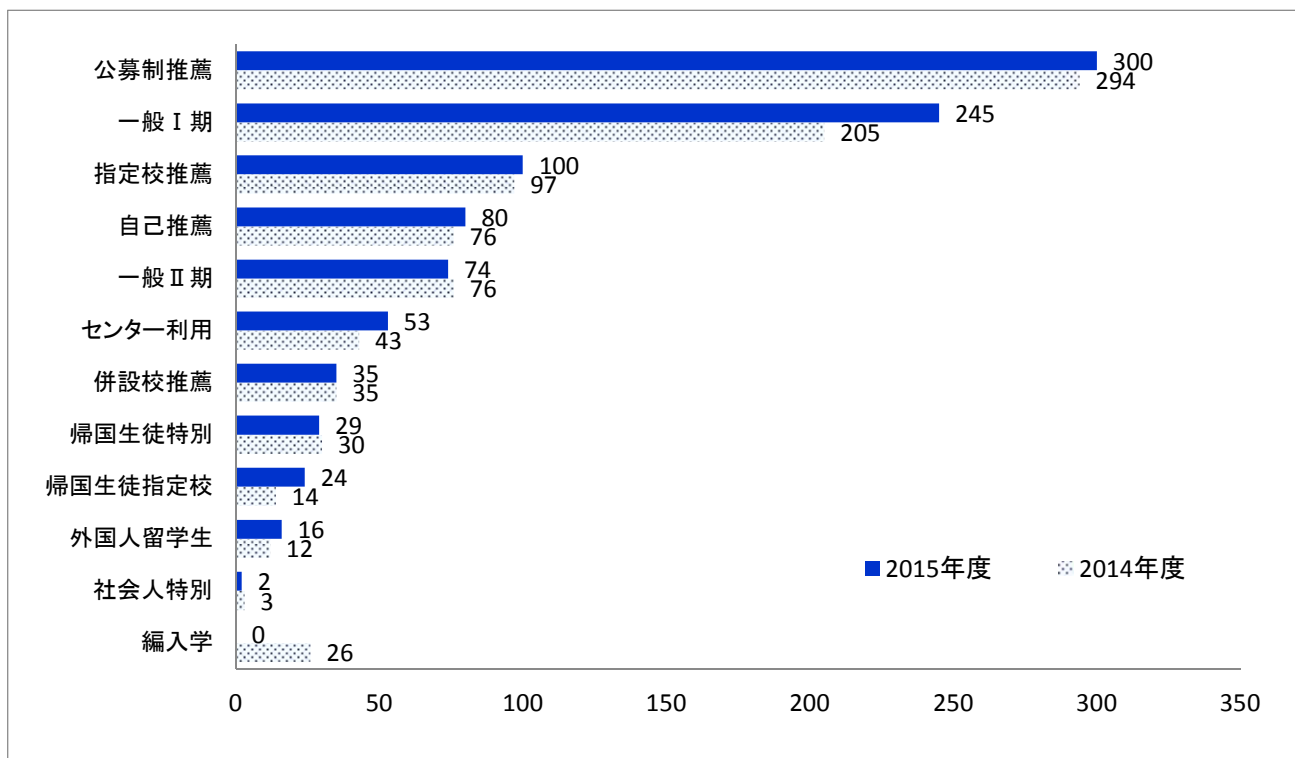


図4 年度別の回答者の選抜方法（人数）

5. 大学入学後の住まい

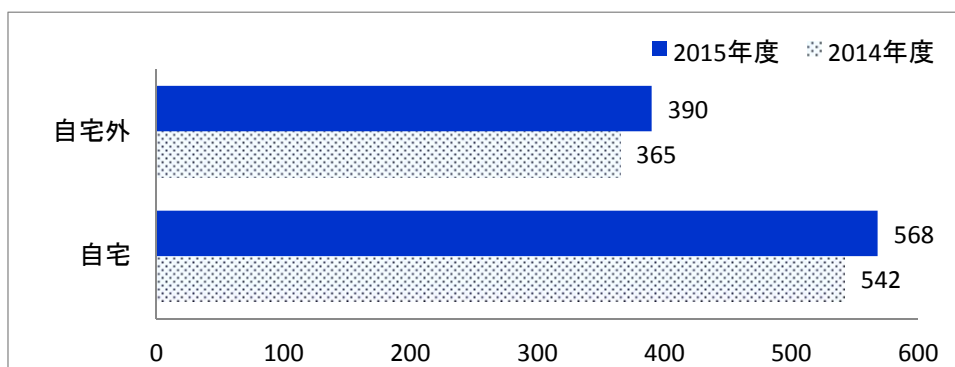


図5 年度別の回答者の大学入学後の住まい（人数）

6. 大学進学目的（主なものを3つまで回答してもらった）

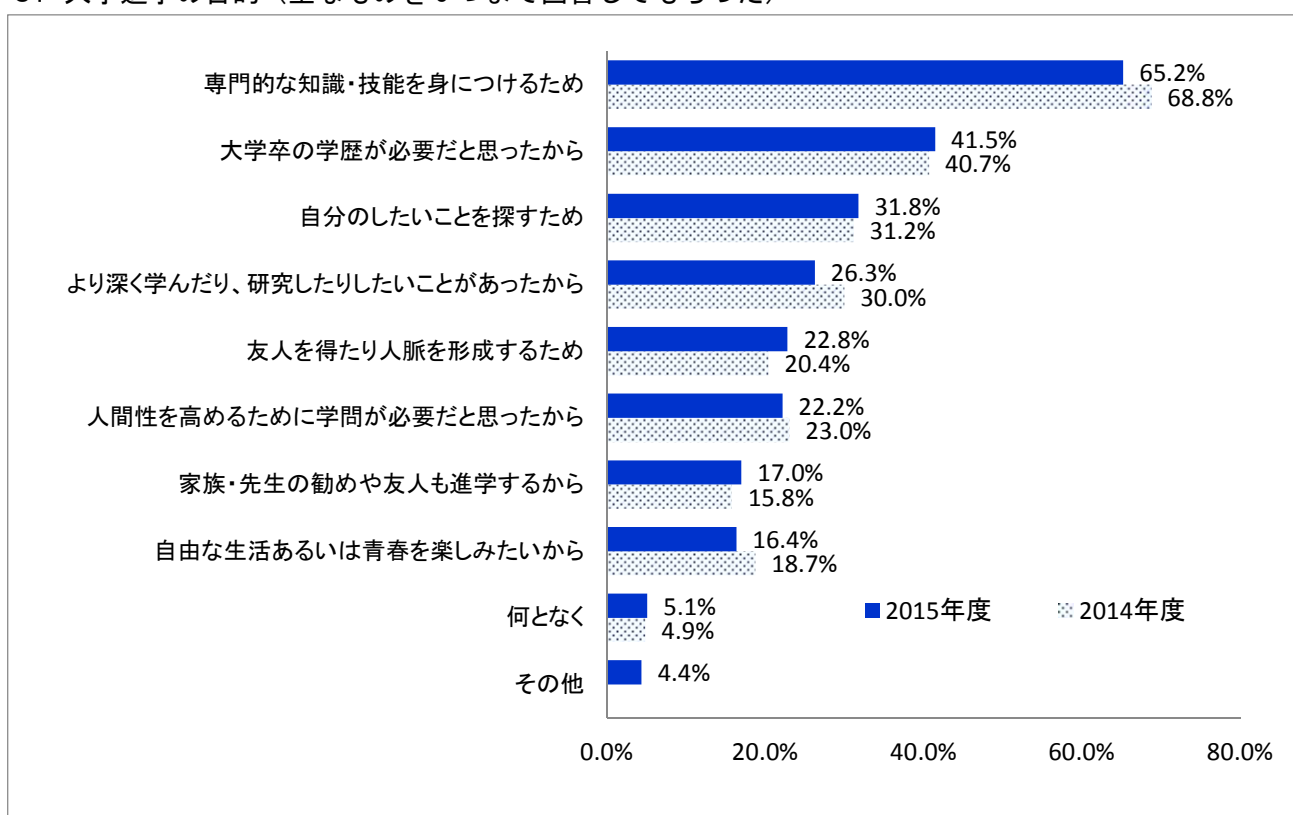


図6 年度別の回答者の大学進学目的（%）

7. 大学生活の目標（主なものを3つまで回答してもらった）

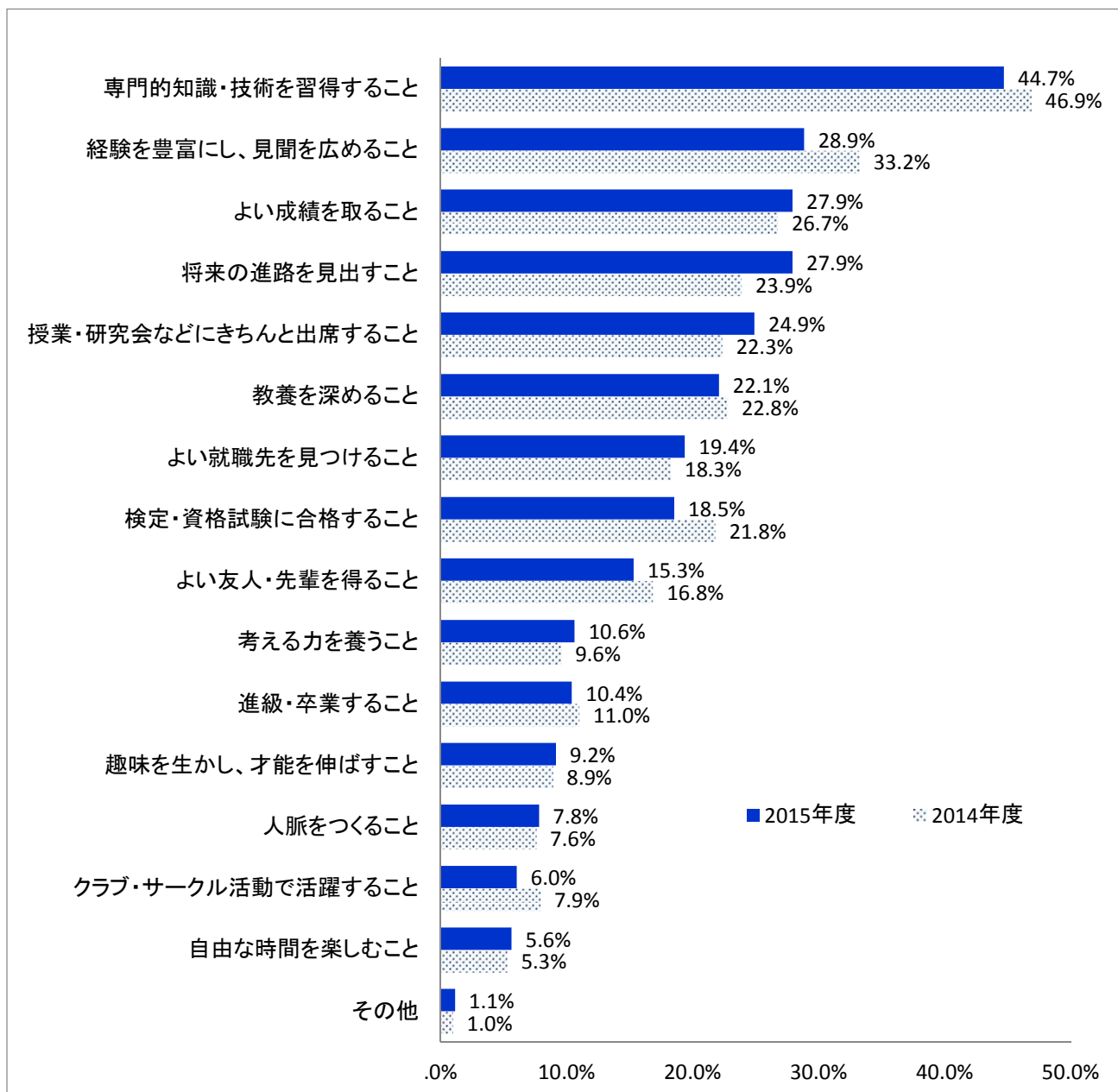


図7 年度別の回答者の大学生活での目標 (%)

8. 現在関心や興味がある事柄（主なものを2つまで回答してもらった）

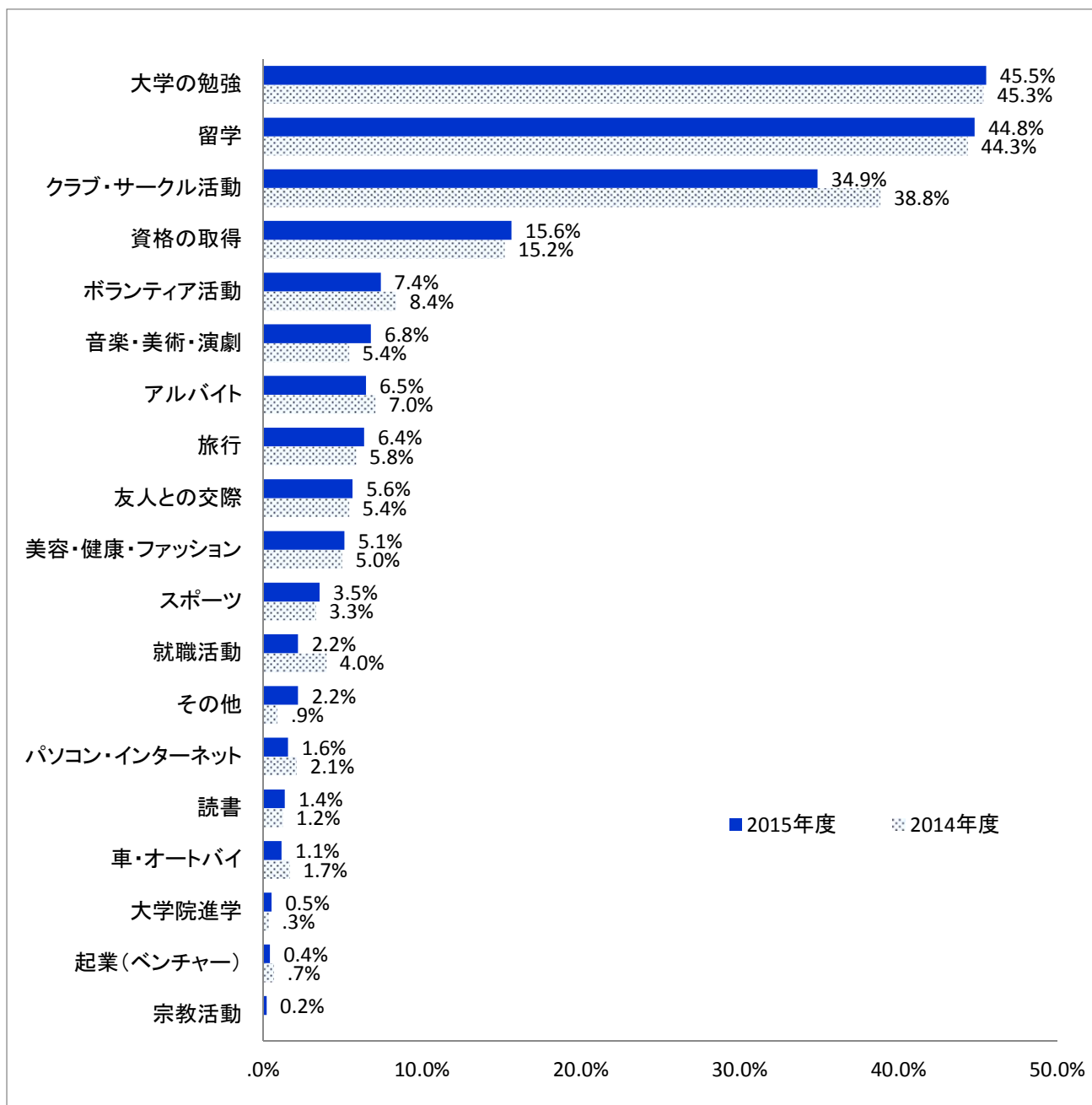


図8 年度別の回答者の現在興味・関心がある事柄 (%)

9. 現在の不安や悩み（主なものを2つまで回答してもらった）

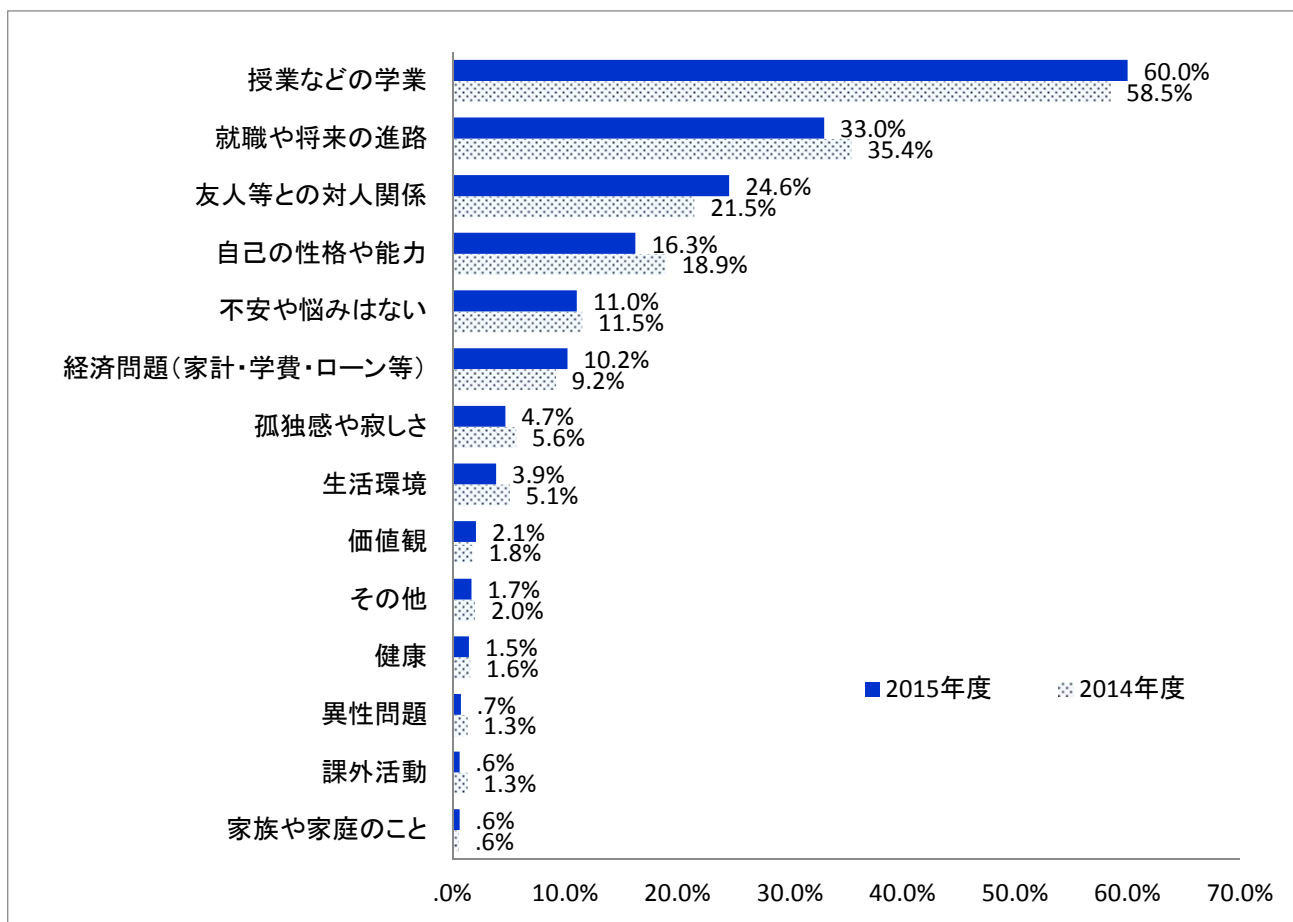


図9 年度別の回答者の不安や悩みのある事柄 (%)

10. オープンキャンパスへの参加

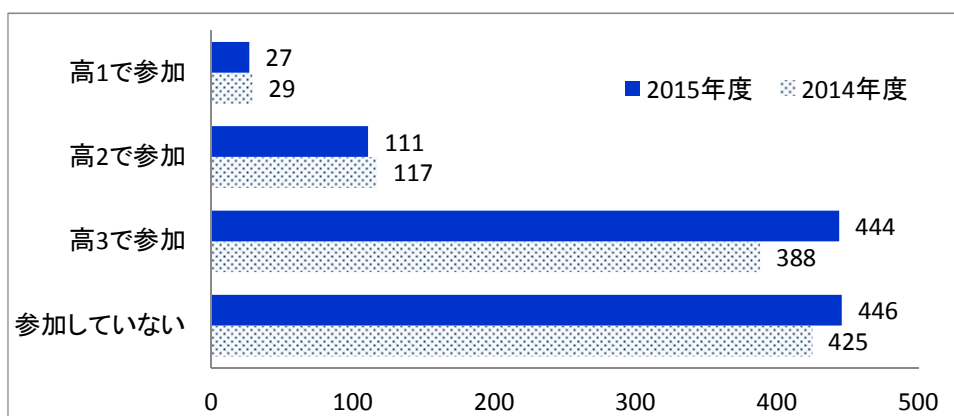


図10 年度別の回答者のオープンキャンパスへの参加状況 (人数)

1.1. USE（入学前学習支援）への参加

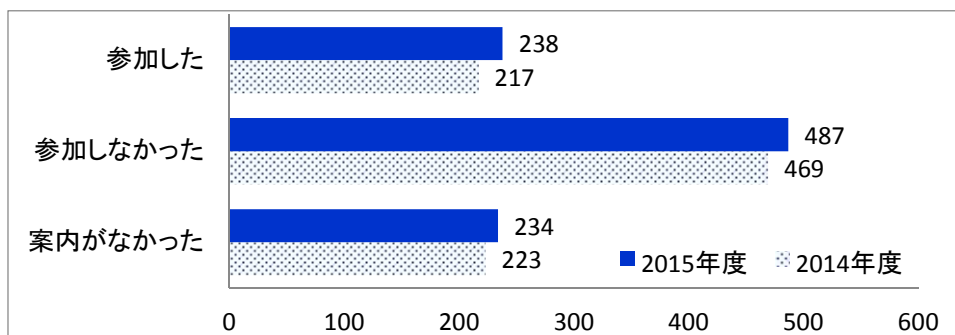


図1.1 年度別の回答者のUSEへの参加状況（人数）

1.2. 学外オリエンテーションについて

学外オリエンテーションについて、3つの質問を行った。図1.2. 1は、学外オリエンテーション1日目午後の理解度であり、「理解できた」「まあ理解できた」という肯定的な回答が9割強であった。図1.2. 2は、学外オリエンテーション1日日夜の満足度であり、「満足」「まあ満足」という肯定的な回答が9割強であった。図1.2. 3は、学外オリエンテーション2日目午前の満足度であり、「満足」「まあ満足」という肯定的な回答が9割強であった。これらから、多くの学生が高い満足感を示していることが分かる。

次に、年度による回答傾向の推移についても検討した。年度×回答数のクロス集計表を作成し、質的変数の関連性の強さを示す効果量であるCramer（クラメル）のVを算出した。今回は、このVが.20以上であれば、回答と年度の関連性があると判断した。その結果、いずれにも年度と回答傾向の関連はみられず、年度による回答傾向の大きな推移はないと考えられる。

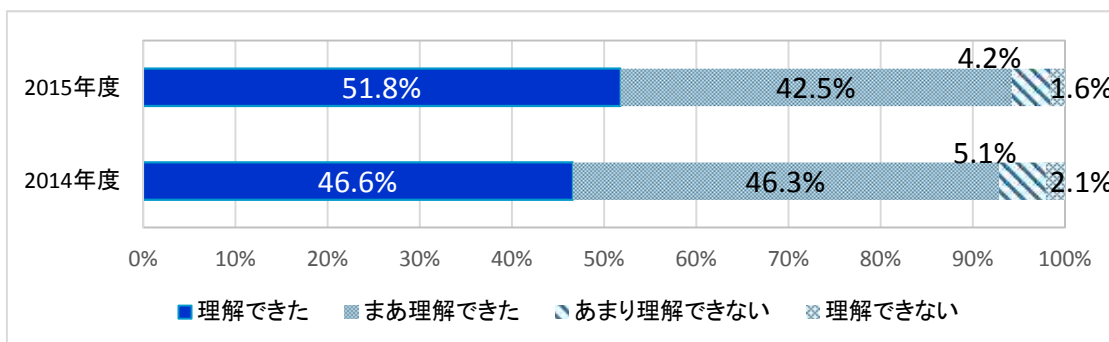


図1.2. 1 年度別の回答者の学科行事1（1日目午後）の理解度（%）

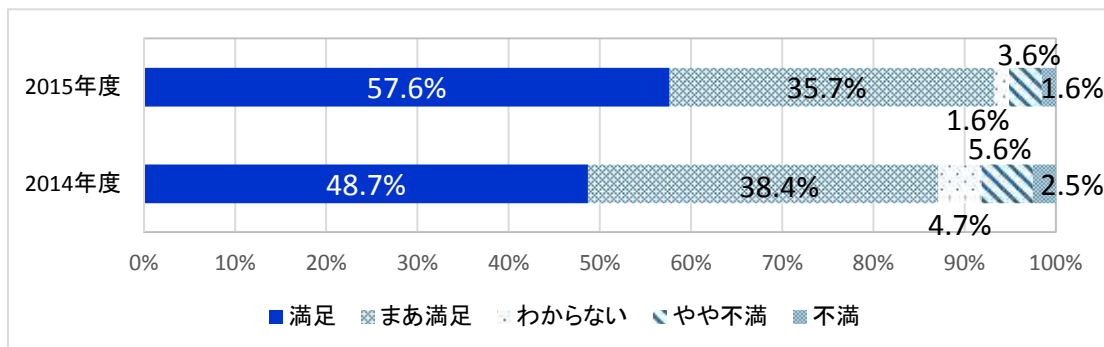


図1.2. 2 年度別の回答者の学科行事2（1日日夜）の満足度（%）

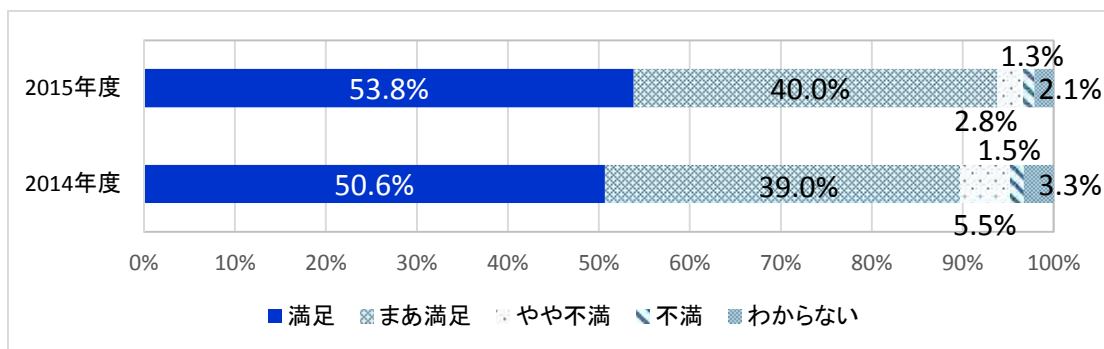


図 1 2. 3 年度別の回答者の学科行事 3（2日目午前）の満足度（%）

1 3. 学外オリエンテーションでの友人や教職員との親睦や交流

図 1 3 は、学外オリエンテーションでの友人や教職員との親睦や交流についての回答結果であり、「かなりはかれた」「まあはかれた」という肯定的な回答が 9 割強であった。次に、年度による回答傾向の推移についても検討した。Cramer (クラメル) の V を算出した結果、年度と回答傾向の関連はみられず、年度による回答傾向の大きな推移はないと考えられる。

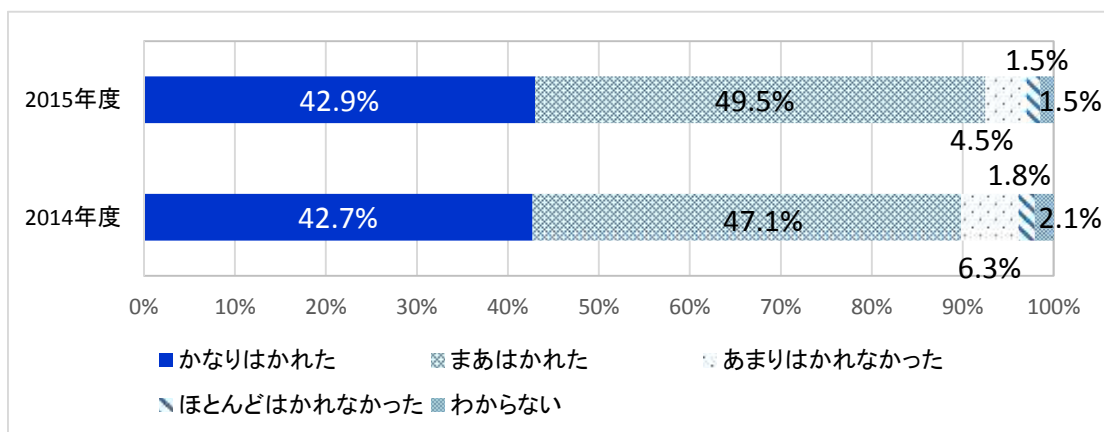


図 1 3 年度別の回答者のオリエンテーションにおける友人や教職員との交流度合（%）

14. 本学（学科）の入学理由との関連（それぞれの項目が入学理由とどれほど関連があるか）

ここでは、「学びたい言語・文化を専攻できること」といった23の本学の入学理由に関連する内容への回答結果を示した。「たいへん関係ある」と「関係ある」を合わせた回答の割合が最も高かったのは、「図14.1 学びたい言語・文化を専攻できること」であり、多くの学生にとって自分の学びたいと思っている言語・文化を深く学べるということが入学の理由になっていると考えられる。また、次に回答の割合が高かったのは、「図14.2 複数の外国語を学べること」であり、いくつもの外国語を学ぶ機会があるということも大きな入学理由になっていると考えられる。

次に、年度による回答傾向の推移についても検討した。Cramer（クラメル）のVを算出した結果、いずれにも年度と回答傾向の関連はみられず、年度による回答傾向の大きな推移はないと考えられる。

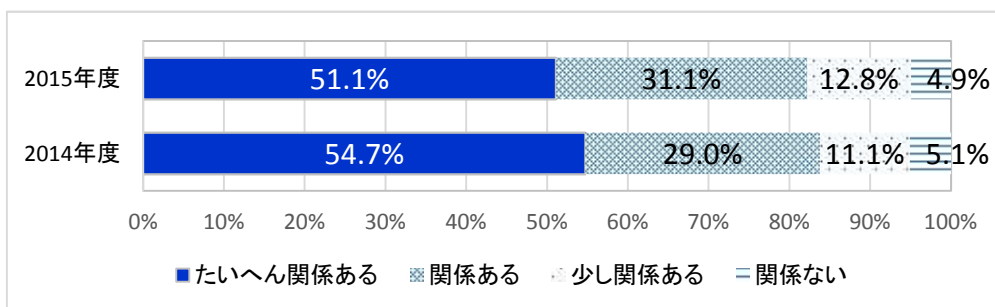


図14.1 年度別の「学びたい言語・文化を専攻できること」と入学理由との関連 (%)

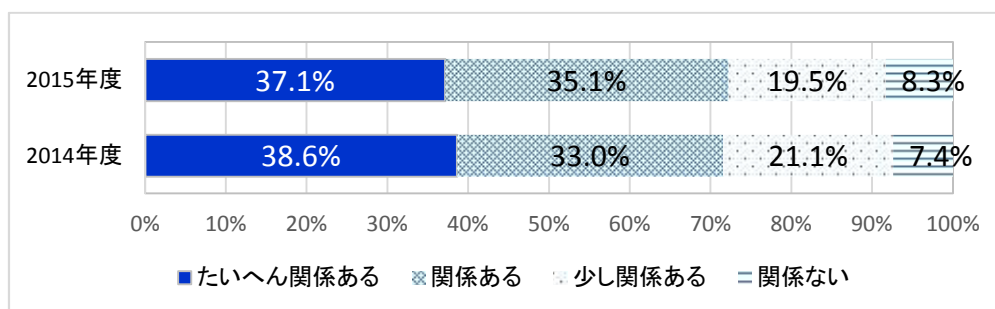


図14.2 年度別の「複数の外国語を学べること」と入学理由との関連 (%)

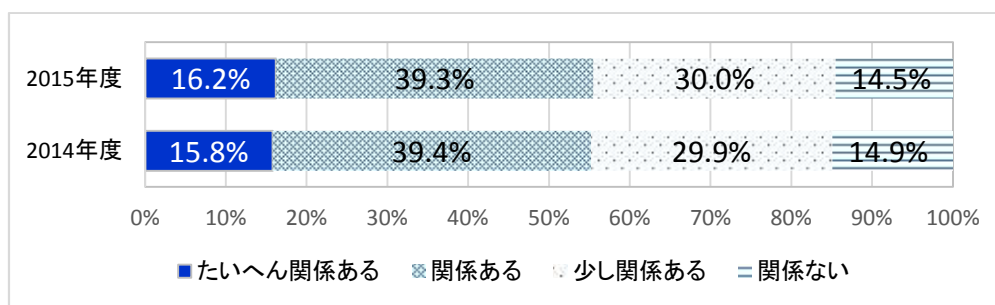


図14.3 年度別の「社会人になるための教育の充実」と入学理由との関連 (%)

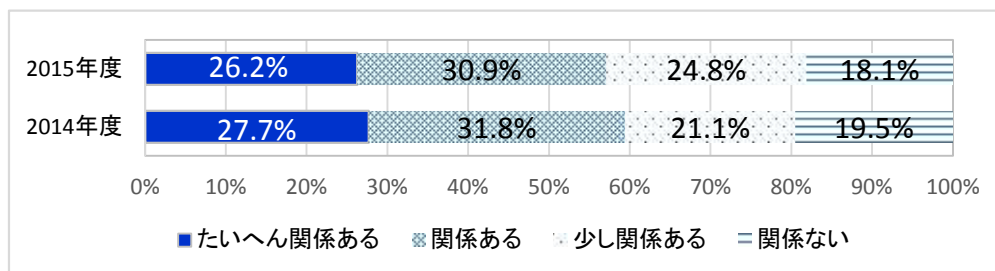


図14.4 年度別の「少人数教育であること」と入学理由との関連 (%)

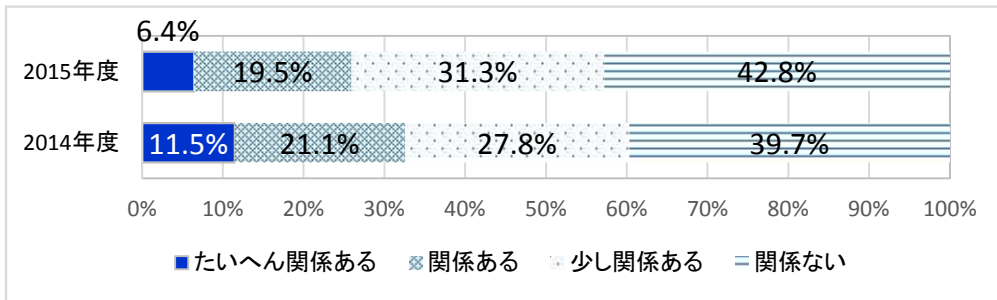


図 1 4. 5 年度別の「新しいカリキュラムの魅力」と入学理由との関連 (%)

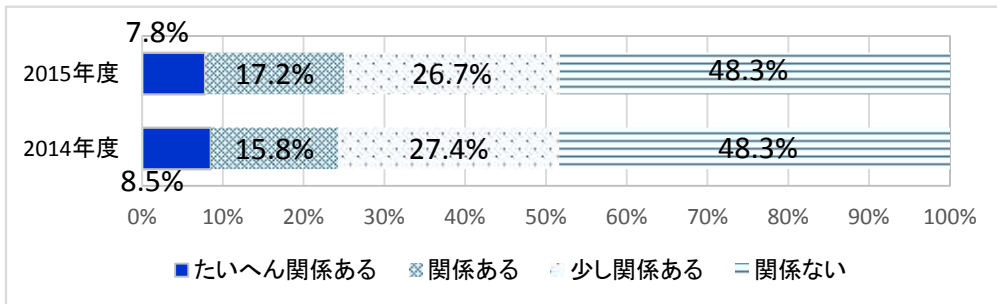


図 1 4. 6 年度別の「次世代リーダー育成プログラム」と入学理由との関連 (%)

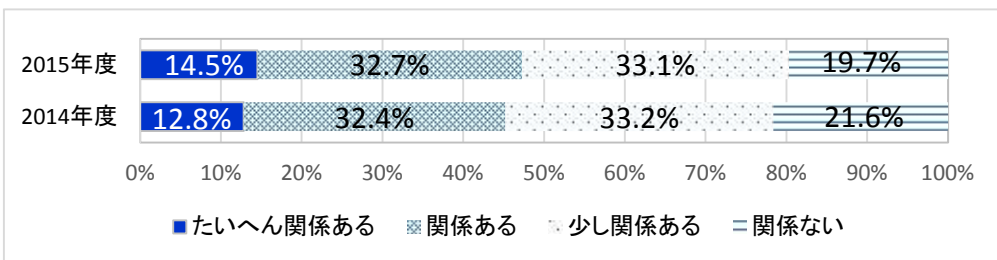


図 1 4. 7 年度別の「学力にあっていること」と入学理由との関連 (%)

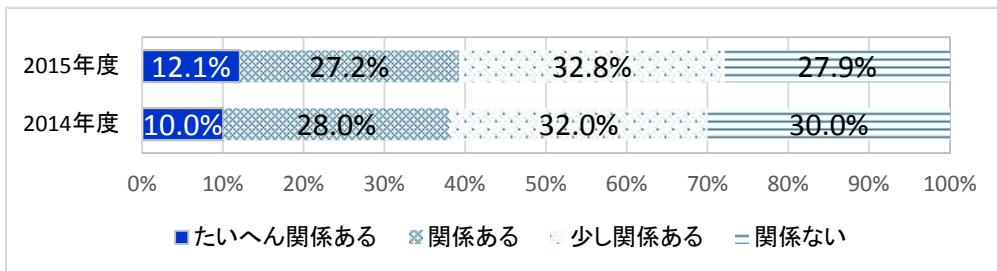


図 1 4. 8 年度別の「施設・設備の充実」と入学理由との関連 (%)

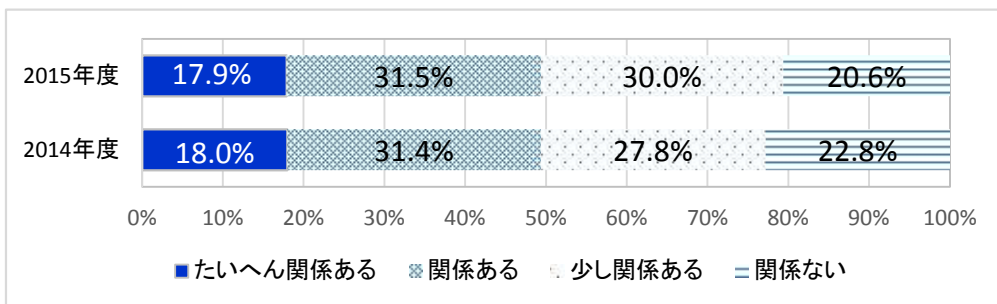


図 1 4. 9 年度別の「キャンパスの雰囲気」と入学理由との関連 (%)

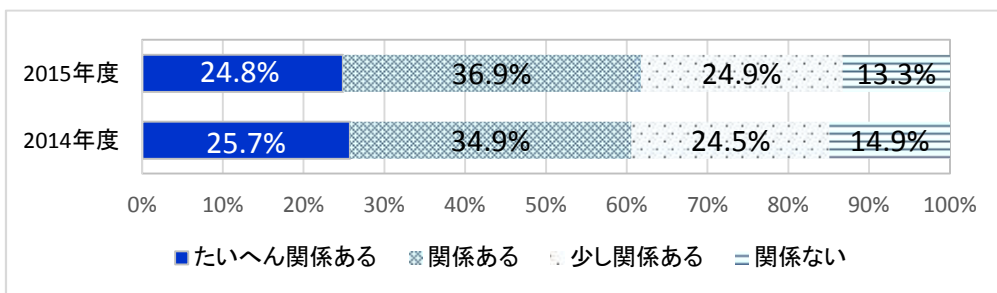


図 1 4. 1 0 年度別の「海外留学しやすいこと」と入学理由との関連 (%)

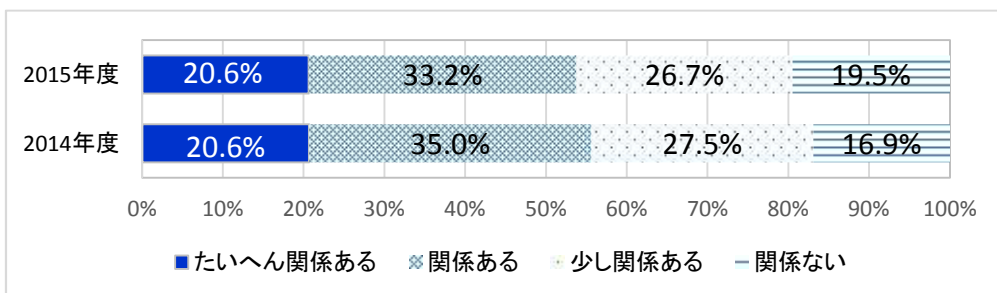


図 1 4. 1 1 年度別の「外国人留学生が多いこと」と入学理由との関連 (%)

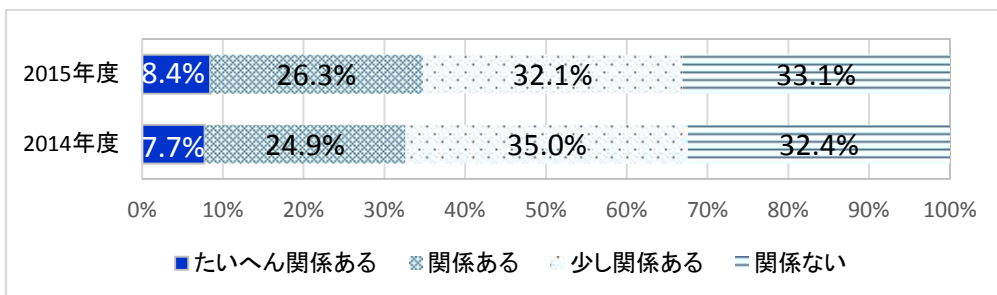


図 1 4. 1 2 年度別の「大学の知名度」と入学理由との関連 (%)

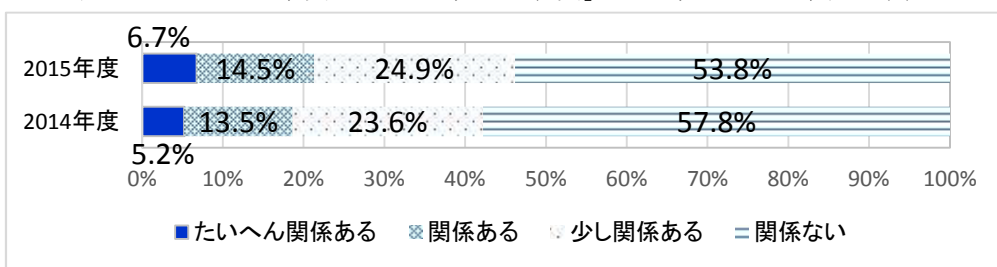


図 1 4. 1 3 年度別の「有名な先生がいること」と入学理由との関連 (%)

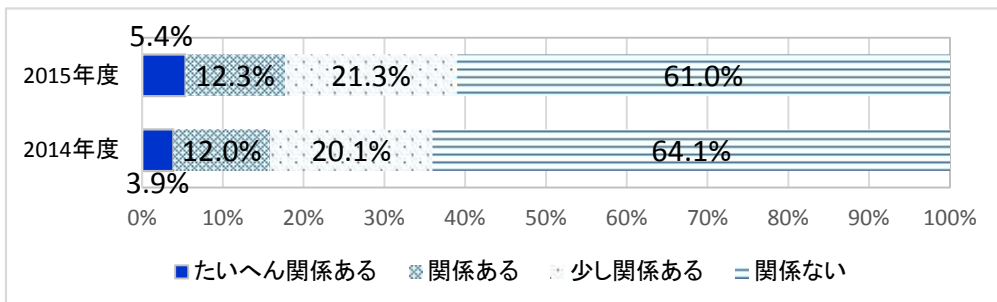


図 1 4. 1 4 年度別の「本学がメディアで紹介されたこと」と入学理由との関連 (%)

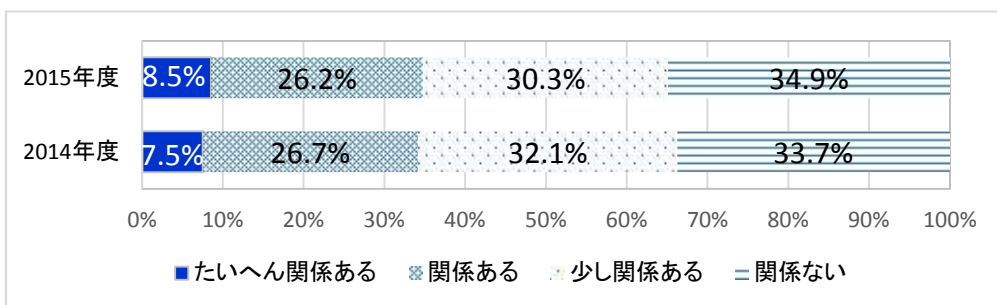


図1 4. 1 5 年度別の「一般企業への就職がよいこと」と入学理由との関連 (%)

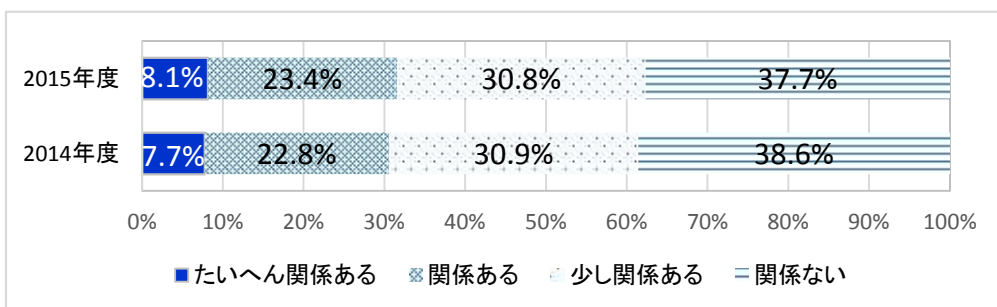


図1 4. 1 6 年度別の「教員・公務員への就職がよいこと」と入学理由との関連 (%)

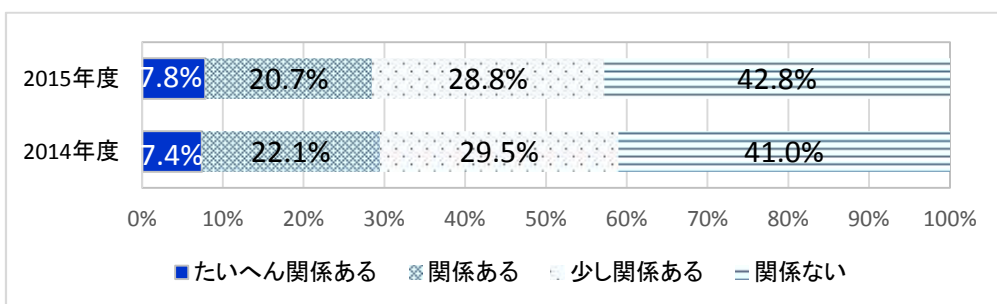


図1 4. 1 7 年度別の「経済的支援の充実」と入学理由との関連 (%)

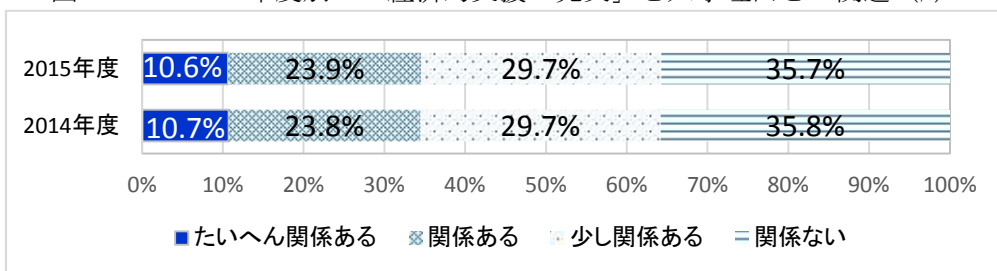


図1 4. 1 8 年度別の「課外活動の充実」と入学理由との関連 (%)

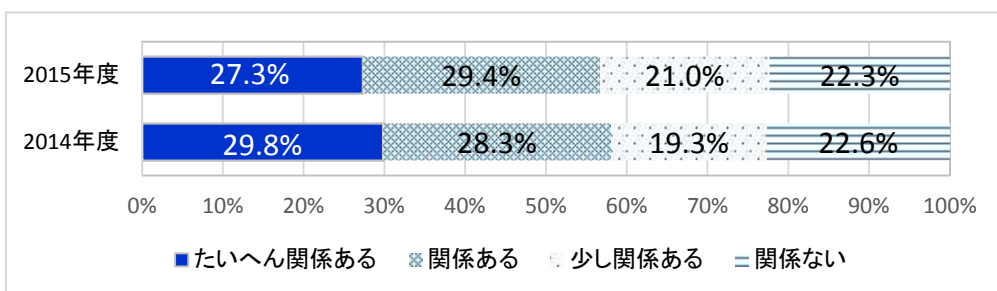


図1 4. 1 9 年度別の「京都にあること」と入学理由との関連 (%)

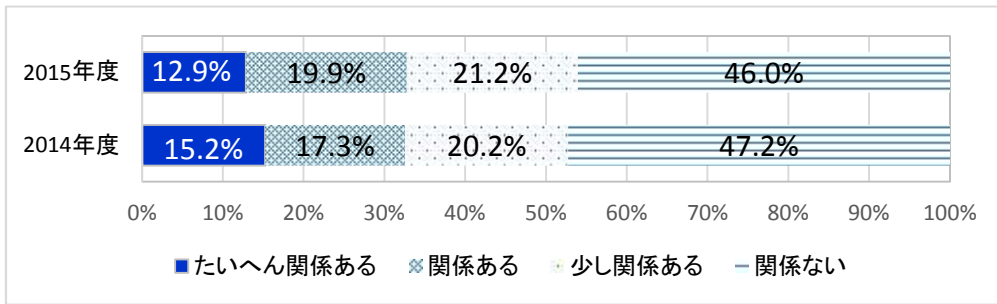


図 1 4 . 2 0 年度別の「通学に便利」と入学理由との関連 (%)

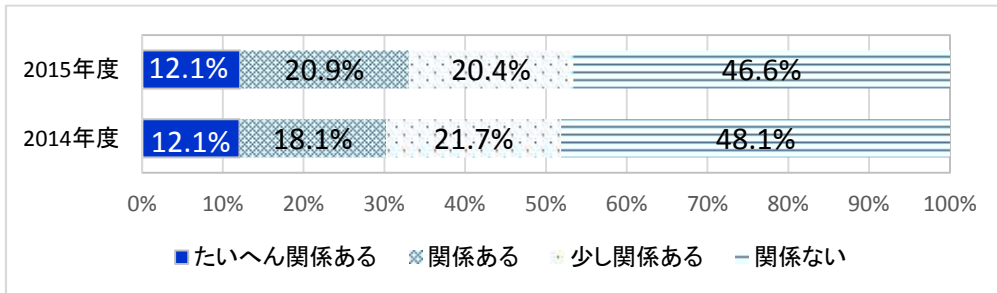


図 1 4 . 2 1 年度別の「オープンキャンパスがよかったこと」と入学理由との関連 (%)

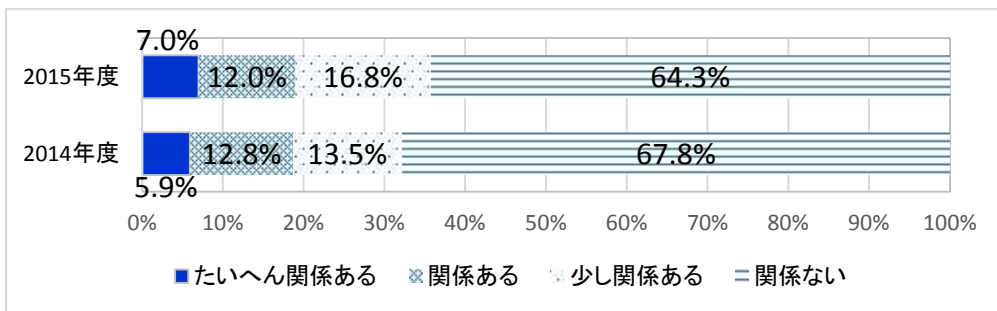


図 1 4 . 2 2 年度別の「USE (入学前学習支援) がよかったこと」と入学理由との関連 (%)

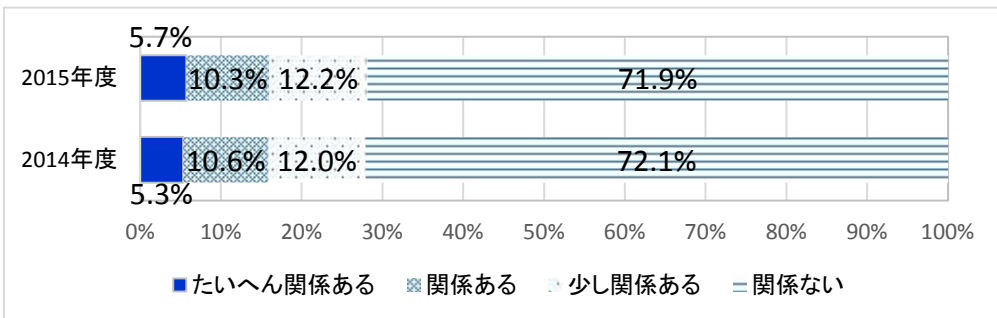


図 1 4 . 2 3 年度別の「出前授業がよかった」と入学理由との関連 (%)

15. 本学入学への影響（それぞれの項目が本学の入学にどれほど影響したか）

ここでは、「父母、保護者」といった13の本学の入学に影響したものへの回答結果を示した。「たいへん影響がある」と「影響がある」を合わせた回答の割合が最も高かったのは、「図15.3 高校のクラス担任の先生」であり、本学入学において高校のクラス担任の先生からのアドバイスなどが影響していることが分かる。また、次に回答の割合が高かったのは、「図15.5 高校の英語の先生」であり、高校の英語の先生からのアドバイスなども本学の入学に影響していると考えられる。

次に、年度による回答傾向の推移についても検討した。Cramer（クラメル）のVを算出した結果、いずれにも年度と回答傾向の関連はみられず、年度による回答傾向の大きな推移はないと考えられる。

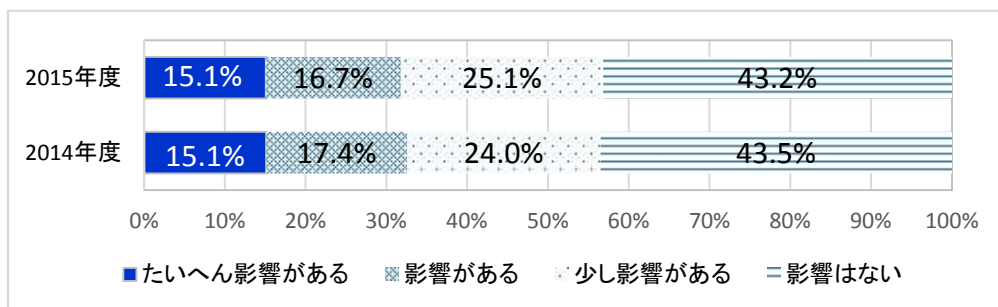


図15.1 年度別の父母、保護者の本学入学への影響 (%)

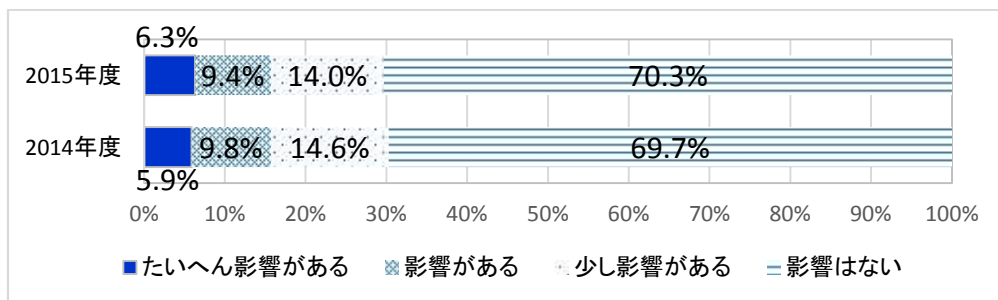


図15.2 年度別のきょうだい、親戚の方の本学入学への影響 (%)

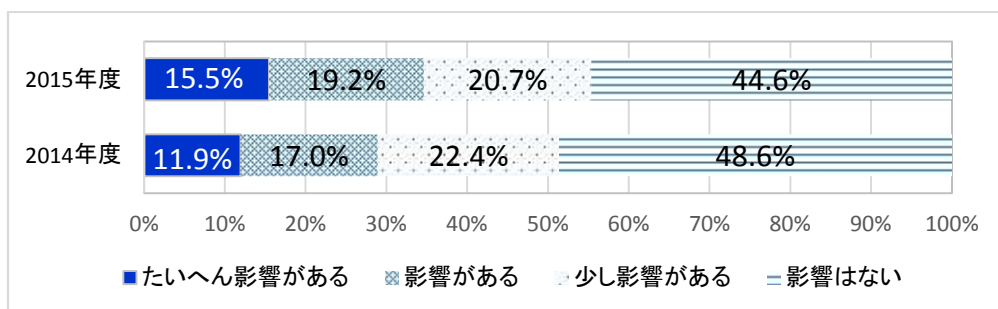


図15.3 年度別の高校のクラス担任の先生の本学入学への影響 (%)

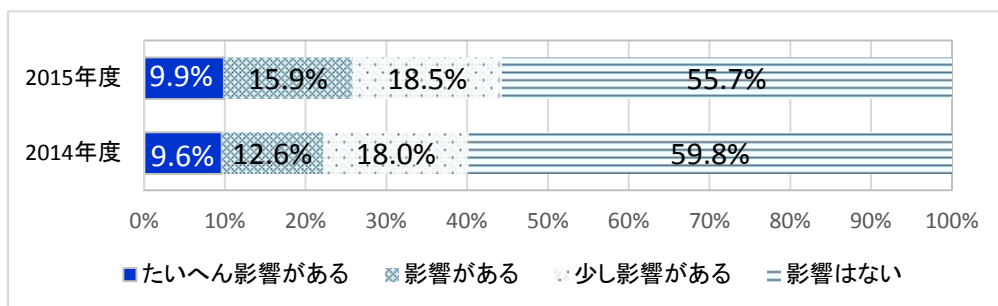


図15.4 年度別の高校の進路指導の先生の本学入学への影響 (%)

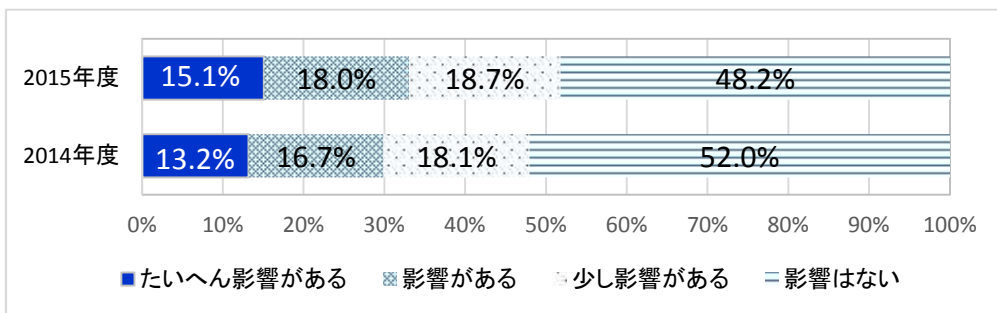


図 1 5. 5 年度別の高校の英語の先生の本学入学への影響 (%)

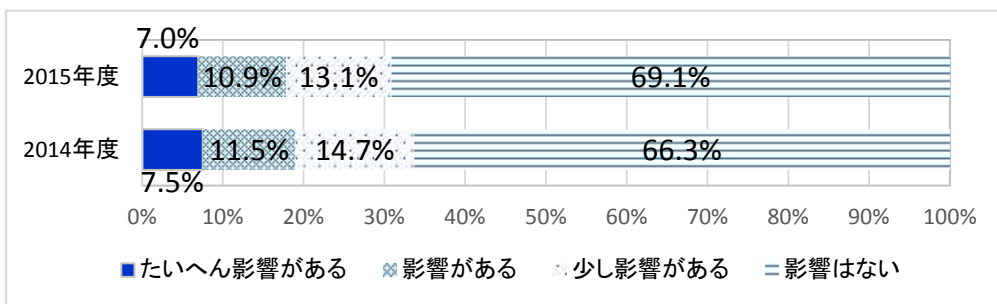


図 1 5. 6 年度別の予備校（塾）の先生・職員の本学入学への影響 (%)

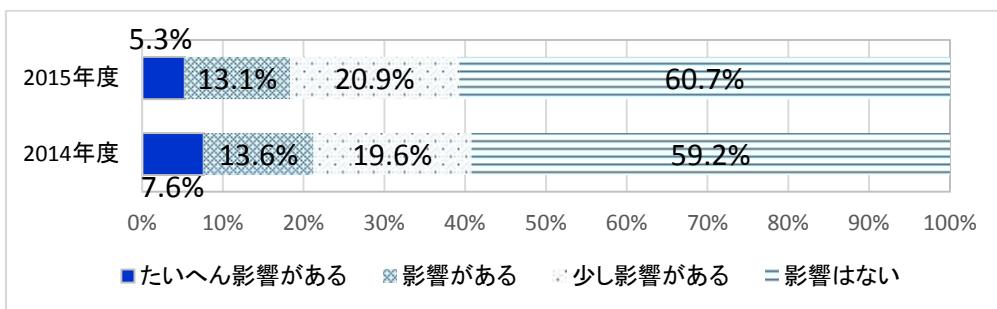


図 1 5. 7 年度別の友人・先輩の本学入学への影響 (%)

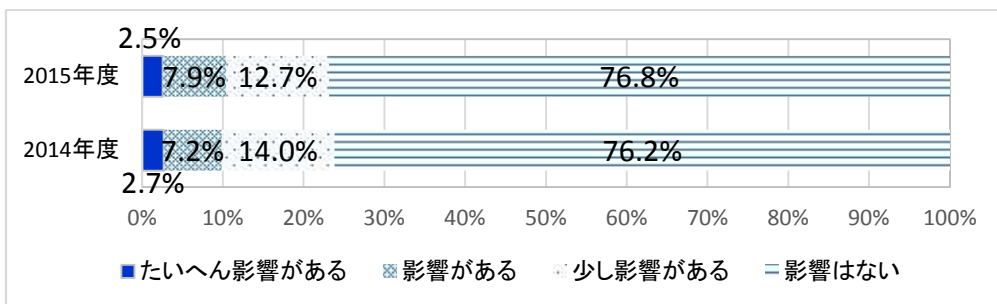


図 1 5. 8 年度別の受験相談会の本学入学への影響 (%)

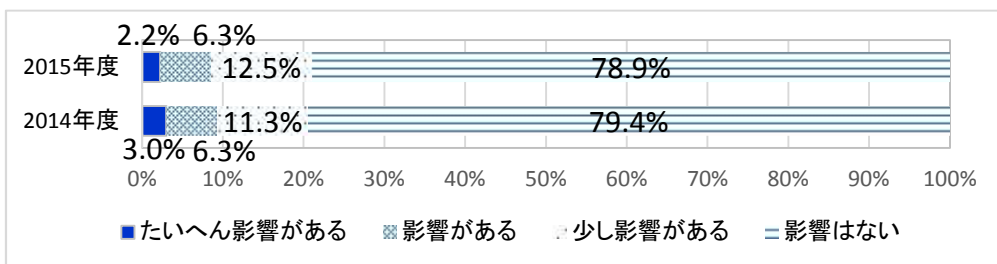


図 1 5. 9 年度別の広報誌「Earth」の本学入学への影響 (%)

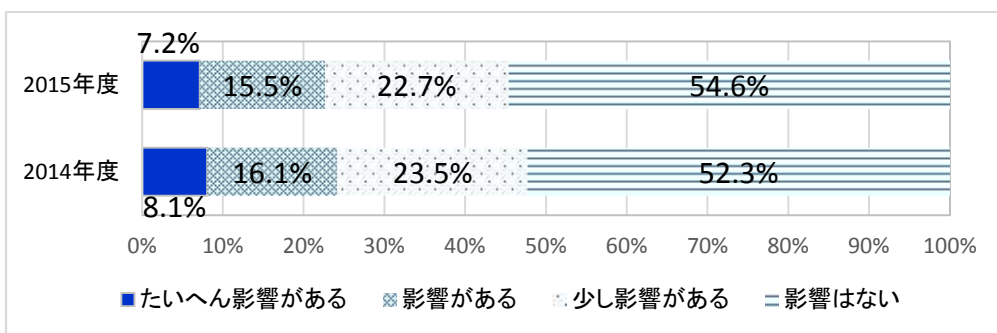


図 1 5 . 1 0 年度別の本学ホームページの本学入学への影響 (%)

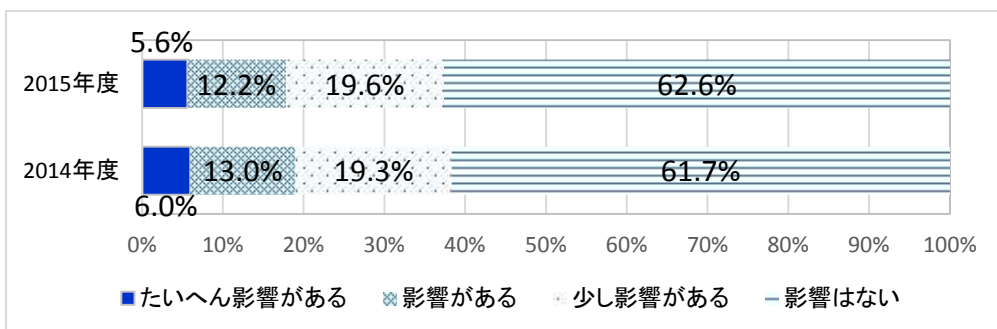


図 1 5 . 1 1 年度別の受験関係広報誌の本学入学への影響 (%)

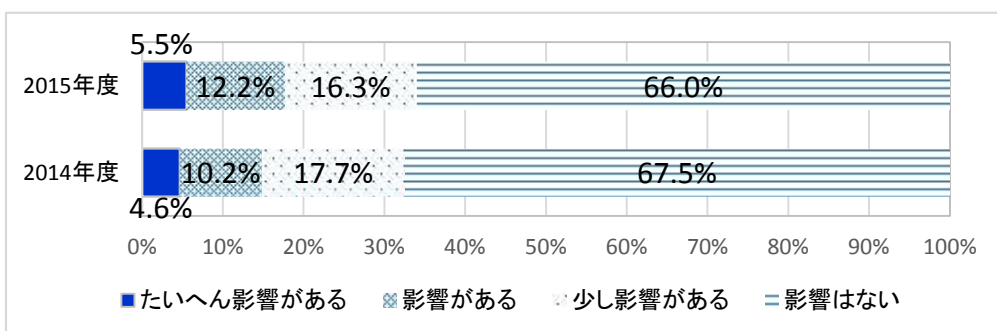


図 1 5 . 1 2 年度別の受験関連サイトの本学入学への影響 (%)

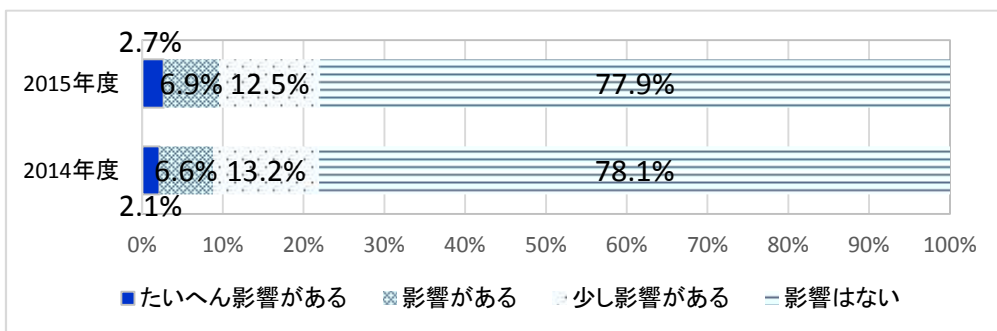


図 1 5 . 1 3 年度別の相談サイトの本学入学への影響 (%)